

埼玉病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究で検体や情報を利用することを希望しない場合は、研究対象から除外いたしますので、末尾の【問い合わせ先】にご連絡ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【研究課題名】

婦人科疾患（子宮腫瘍、付属器腫瘍、婦人科感染症、ホルモン異常、更年期障害）の診療に関する後方視的研究

【研究責任者】慶應義塾大学 産婦人科学（婦人科）山上 亘

【研究の背景】

厚生労働省の報告によると、2019年に日本で婦人科がんと診断された患者は年間約4万人で、そのうち約7,000人（17.5%）がステージⅢ以上の進行がんと報告されています[1]。これらの患者のほとんどは、これらのがんに対して化学療法を受けています。治療期間中、患者は何サイクルもの化学療法を受けるために多くの時間を病院で過ごし、再発の不安に怯えることになる。患者やその家族にとっては、非常に長く辛いプロセスです。さらに、悪性腸閉塞や直腸腫瘍のような腫瘍学的緊急事態が起こり、患者の苦痛を悪化させることがある。その結果、原疾患の治療が中断されることが多く、さらに悪いことに、その管理のために長期入院が必要となります。[1]

【研究の目的】

これまでの報告では、再発・進行婦人科癌患者のQOLに関する検討は報告が限定的です。そこで本研究では、再発・進行婦人科癌患者のQOLを明らかにすることを目的とし、後方視的研究を行う予定です。

【参考文献】

1. Lee, Y.C., et al., *Optimizing the Care of Malignant Bowel Obstruction in Patients With Advanced Gynecologic Cancer*. J Oncol Pract, 2019. 15(12): p. e1066-e1075.

【研究の方法】

- 対象となる患者さん
婦人科がん患者のうち、2015年から2023年に治療を受けた患者
- 研究期間：2015年1月1日から2024年3月31日
- 利用する試料・情報
試料：なし
情報：
カルテデータ（診断名、組織型、病期、年齢、初発診断日、再発診断日、イレウス診断日、経口摂取量、最終生存確認日、血液検査データ、画像検査データ、経過表データ）

【研究組織】

この研究は、多施設での共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。

- 研究代表者（研究の全体の責任者）：慶應義塾大学医学部 産婦人科 岩田卓
- その他の共同研究機関：なし

【試料・情報の管理】

情報は、研究代表者機関である慶應義塾大学にパスワード付きUSBを介して提供され、集計、解析が行われます。

収集した情報は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の研究に不要な情報を削除し、代わりに研究用の識別符号をつけ、どなたのものか分からないようにします（このことを仮名化といいます）。仮名化した情報は提供先研究機関に提供し、提供先研究機関は慶應義塾大学で厳重に保管します。識別符号と被験者の対応表は、当施設にて、鍵のかかるロッカーで厳重に保管します。

国立病院機構埼玉病院
緩和ケア内科 大野あゆみ
電話 048-462-1101